

佐伯史談

第九十七号

郷土史研究誌
通算第百十九号

昭和四十九年十二月 六日

佐伯史談 会
事務所 佐伯市大字稻垣中蔵護手 羽柴方

論説

二つの顕彰状

なぜであるか、どううけるか

佐伯史談会
副会長 羽柴 弘

去る十一月九日午前十時、三の丸櫓門保存会は県庁に招かれ、立木知事から次のような顕彰状を受けとった。
保存会から高木会長・武石副会長それに私(事務局長)それに市長に代って挨拶助役が列席した。

顕彰

佐伯城三の丸櫓門保存会 殿

貴会は「ふるさと大分」の郷土を豊かに佐伯城三の丸櫓門の保存活動に努め県民の愛郷心の高揚に寄与されましたその功績は誠に大でありますので顕彰します

昭和四十九年十一月九日
大分県知事 立木 勝太郎

この顕彰の意味するものは何であるか。まず「ふるさと大分」振興の立木県政が、三の丸櫓門のもつ文化的歴史的存在を高く評価し、これの保存運動に真向から取り組んでいる保存会の努力を認めてくれたものである。そして顕彰状にそえて金五拾万円の助成金の交付があった。このことは、実に破格、異例なことである。

これを受けて三月後の十二月、櫓門修築の起工式が行われ、たが、臨時の池田市長は祝辞の中で、佐伯市から県の助成に依りてその倍額の補助を約束して下さった。

つづいて十一月十八日、今度は佐伯史談会が県庁に招かれ、午後一時から立木知事によつて表彰された。史談会を代表して高木・羽柴・深矢・小野の四名が出席し、市役所からは商工観光課の三輪係

本号内容

- 二つの顕彰状……(羽柴弘)
- 概説 平家物語と箱崎籠城(佐藤貴二)
- 三 平家の大宰府落着き心
- 概説 中用益当座帳(豊原恭二)
- 八 羽柴氏伝説七考
- 概説 佐伯市街母録
- 概説 横川先生と佐伯(山本 保)
- 五 「郷土の研究」誌ぶら
- 概説 前高祖神神廟歌(冬宮 永)
- 五 藤原東に伝教化をたすねて……
- 一四 史談会、秋の所修記録……
- 二 佐伯氏位牌まつり(藤澤幸集)
- 集會案内、賛助寄付……
- 三 会員計報その他

長が文会つて下さつた。

顕彰式は、前回は櫓門保存会だけであつたが、今回は個人二、団体四が送彰されたが、わが史談会のは次のようなものであつた。

顕彰

佐伯史談会 殿

貴会は永年におたり「ふるさと大分」の郷土堂かな文化財の保護活動並びに郷土史の調査研究に努め、県民の愛郷心の高揚に寄与され、またその功績は誠に大でありますので顕彰します

昭和四十九年十一月十八日

大分県知事 立木

勝

これは前回のと全く同じ「ふるさと大分」振興、県民の愛郷心の高揚に寄与したということであり、櫓門保存会構成の中核団体として、二重の表彰である。

今回の史談会には、永年におたりの実績を賞して、金拾万円の事業助成金の交付をうけた。これは佐伯史談会がはじめて具段階で、しかも県知事から認められたこと、それが「ふるさと大分」振興という視点からであるにせよ、多年の累積を思つて、卒直に会員皆さんと喜びを共にしたい。

櫓門の修復保存——この課題は、佐伯史談会としては充分に未の大事業である。言うまでもなく三の九の櫓門は、鶴屋城の唯一の遺構であり、特別保護を要する歴史的な建造物である。城下所伝伯の象徴、五万市民だけでなく、郡部を含めての廣い全佐伯の人々の誇るべき文化

遺産で、今後次の世代に受けついで貰ねばならない。大分県唯一の建造物である。

史談会は卒先して保存会の結成をはかり、修築工事ははじまつた。佐伯市の文化財としての指定、所有者毛利家から無償で佐伯市への寄贈、大分県指定文化財への格上げと、すべて史談会によって推進している。幸い理解ある多数の方々によって修築工事費が続々寄付されてい、前途の見通しは明かである。

今回二重の顕彰をうけて、我々はどうか考えなければならぬ。

まず、県及び市の文化財担当の方々から、復元修築の施工の指導をうけ、また施工者曾宮氏の誠意にもとずく立派な工事のとり進めを要望したい。勿論これに要する建築諸費用を賄うに足る、寄付金の募集に努力しよう。

そのためには、まず関連の深い地元佐伯市民に呼びかけ、金額の多少を言うことなく、一人でも多くの協力者を求めたい。旧藩時代の建造物であるので、旧藩領に属する郡部所村の方々からの支援もうけよう。

櫓門の今回の修築は、百年に一度行なわれる程のもので、我々は世紀一度のこの機会に出あつてゐる。そしてわが佐伯史談会が、櫓門保存の中核的な立場にある。史談会の責務は大きい。

四百に近い会員と支援の方々の、一致団結しての対処が望まれる。会の結成以来十七年、堅実に歩んで来たわが史談会は、本年度棟尾の事業として全力を投入し、史談会にとつてはふたつ、つたこの事業を、見事に達成しようではないか。

全会員の団結、会員一人一人の献身、それによつて我々は、世紀の大事業を始めようと考えている。